



負けるなニッポン
ペグシリーズ



-DATA-

ジュラルミン、クロモリ鋼、ステンレス カラー:シルバー、黒メッキ仕上げ

吊り 消音板つき

種類:1種/ジュラルミン(ONEサイズ)、3種/クロモリ鋼(サイズM~LL)、

1種/ステンレス(ONEサイズ)

価格:280円~777円(税込)

当社の商品はすべて **Made in japan** 表示をしています。

〒334-0062 埼玉県川口市榛松 699

TEL 048(281)1322 FAX 048(286)0866

<http://www.exp-japan.jp> e-mail: exp.offjapan@gmail.com



例年よりも大型なゴールデンウィークも終わり、低山は完全に雪も消え夏山シーズンへと突入しています。ただアルプスなどの高山は雪渓や、一部では残雪がまだまだ豊富に残るシーズンです。入門者も多くなる季節、軽アイゼンの必要性をしっかりと伝えていければと思います。

<定番・軽アイゼンシリーズ>

クロモリ 4P set(ST4) 写真)左

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。
 サイズ:43mm×70mm。爪高:15mm。重量:135g。
 税込価格:¥2,948(本体価格¥2,730)



クロモリ5Pset(ST29) 写真)右

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。
 サイズ:50mm×70mm。爪高:31mm。重量:185g。
 価格:¥3,402(本体価格¥3,150)



- 最大のセールスポイントは本格的アイゼン(8P~14P)と同じ製造過程で造られたことです。材質もクロモリ鋼製。焼入れ塗装も先端技術で処理した自慢の商品です。
- ベルト通し用の左、右のリングがないのも特長です。固定バンドはフレームにつける構造です。リングがないから小さな靴から大きな靴までジャストフィットします。固定バンドが傷みやすいのではと危惧する声もありますが、トラブルはありません。
- ユーザーの安全登山のために開発された4P、5Pです。すべてのハイカーの安全登山のお役に立つのが、エキスパートの願いです。

SP(超)リトルベアーⅡシリーズ

リトルベアーⅡの特長

- 世界で初めて研究開発された6本爪軽アイゼン。トレッキングシューズを含む、あらゆる靴にジャストフィットします。アイゼン爪角度の発明特許商品。
- 最高級の世界で唯一のクロモリ鋼製。日本が誇る先端技術の焼入れ、塗装をほどこした自慢の商品。世界最軽量。コンパクトサイズ。着脱時間はワンタッチアイゼンに劣らず。装着感も勝れる秀作です。

エコですニッポン

SP(超)ショートリトルベアーⅡ set(ST34)

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。
 -DATA-
 サイズ/168 mm×110 mm 爪高 20 mm 重量/505g
 税込価格/¥8,532(本体価格¥7,900)



歴史のニッポン

SP(超)リトルベアーⅡ set(ST31)

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。
 -DATA-
 サイズ:168 mm×110 mm 爪高:31 mm 重量:505g
 税込価格:¥9,666(本体価格¥8,950)



靴の上に乗せ、靴とアイゼンがぴったり合ったところで、付属のレンチで2本のボルトを締めつけば、ボルトを外さずにサイズ調整が完了するスライド式新型6本爪軽アイゼン。微調整可

素晴らしいニッポン ステッキシリーズ

独自の特徴(ステッキ、ストック共通)

伸縮操作が容易な楕円形状のシャフト。A7001 超ジュラルミン製。

- 長さ調整は特殊鋼製板バネとカムで行う「ラチェット式」。指でカム(突起部)を押すと、ロックが解除され長さ調整ができる。我社独自の構造。操作しやすく、握力不要。
- クッションは巻き方向が違う大小のコイルバネの組合せで衝撃を吸収する「ダブルクッション」機構
- すべての金剛には押し込み式の小バスケットがついています。

3段金剛(S1) 転用品につきバスケット大をサービス

3段は径が違うパイプの3段式。

カラー/茶、濃紺。長さ/499mm~965mm。

重量/240g。税込価格/¥9,280(本体価格¥8,600)

3段クッション金剛(S2)

グリップ内にダブルクッション機構付き。

カラー/ワイン、ブルー。長さ/510mm~998mm。

重量/270g。税込価格/¥9,936(本体価格¥9,200)

4段金剛(S3)

4段は径が違うパイプの4段式。

カラー/ワイン、ブルー。長さ/474mm~941mm。

重量/240g。税込価格/¥9,720(本体価格¥9,000)

4段クッション金剛(S4)

最も短いコンパクトサイズ。ダブルクッションつき。

カラー/ワイン、ブルー。長さ/458mm~963mm。

重量/275g。税込価格/¥10,368(本体価格¥9,600)



S1

S2

S3

S4

2016 年のゴールデンウィークは、最長で 10 日間休暇の人もいるという超大型連休。泊りで山に行きたいと思いつつも日程がとれず、日帰り登山を計画し 5/5 の子供の日に決定。渋滞を考慮して、電車とバスで行ける山を探す…。奥秩父と西上州の境界にある両神山に決める。両神山にはいくつかコースがあるが、今回は代表的なコースの日向大谷口(ひなたおおやぐち)登山口から山頂を目指す表参道コースを選択。バスは一日数本しかない。しかもバスだけで 1 時間 30 分かかるといふ登山口までのアクセスが悪い。準備を済ませ早い就寝となる。

2016 年 5 月 5 日 6 時 28 分 武蔵小金井発

立川駅で青梅線に乗換え、さらに拝島駅で八高線に乗換え、東飯能駅で私鉄の西武池袋線に乗換える。ここの乗り換え時間が 3 分と短く、さらに一度改札を出る必要がある。東飯能の駅に着くとザックを背負った一団は改札に向かって小走り。我々夫婦も一緒になって走る。東飯能駅から西部秩父駅まで 9 駅。到着 8 時 09 分。

西武秩父駅から小鹿野町営バス、8 時 20 分発にて薬師の湯まで向かい、さらに乗換えて日向大谷口を目指す。町営バスのため通常のバスより小さく、立ち乗車となる。運転手さんからは「乗れる??大丈夫?」ときかれるほどの混雑…。このバスに乗車しないとタクシーを利用するしかない。バスだと片道 500 円だが、タクシーだと 4000 円以上の出費となる。何としても乗車したい。

<ポイント 1>

町営バスの本数は少なく、また西部秩父駅から向かうと日向大谷口までは乗り換えが必須。運賃も少し複雑なので、支払う前にバスの運転手さんに確認する事をお勧め。

小鹿野町営バスホームページ参照。

<http://www.town.ogano.lg.jp/menju/basu/top.html>

9 時 48 分 日向大谷口到着

10 時 00 分 日向大谷口登山口出発

歩き始めから急な階段を登る。途中、駐車場(トイレ有)があり、登りつめると両神山荘という民宿が右手に現れる。我々は左手の道に進む。案内板と登山届のポストが設置されているので登山届を提出し出発。

<ポイント 2>

下記は埼玉警察署のホームページ

埼玉の山の遭難発生情報、登山情報などが掲載され、こちらのホームページから登山届も提出出来る。

<https://www.police.pref.saitama.lg.jp/d0010/kurashi/sangaku.html>



(両神神社鳥居)

両神神社の鳥居をくぐり、緩やかな登りの登山道をしばらく進む。ところどころに滑落注意の看板が設置されている。道幅が狭いので気をつけなさいという事だろう。

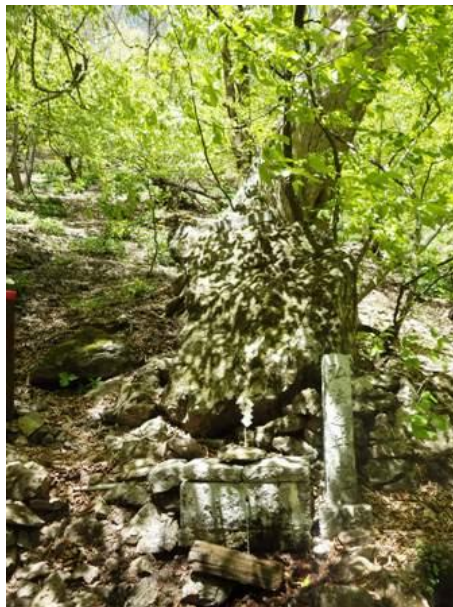
最初の川を渡る時、増水時、荒天時は通行禁止と記載された案内板が設置されている。天気の悪い日はまったく違う山容になってしまうのであろうか。

10時25分 清滝小屋コースと七沢滝コースとの分岐「会所」に到着。

道標があるので間違える心配はない。我々は、左の清滝小屋コースへ進む。薄川(すすきかわ)を何度も渡り返しながら登って行く。川のせせらぎをききながら新緑の中を歩ける気持ちの良い季節である。

11時00分 大頭羅神王(だいずらしんのう)の石像が立つ八海山というポイントに到着。

夫がお腹が空いたと言うのでここで小休憩をとる。気温が温かく汗が良く出てくる。自分も水分を補給する。



(左の写真の中に上の写真の空海の石像が隠れてます。見つけられますか???)

11時10分 「会所」出発

しばらく行くと弘法之井戸という水場に空海の石像がある。登山口からここまで来る間にいくつかの石像を目にしたが、信仰の深い山ということが感じる。



11時35分 清滝小屋に到着

既にたくさんの登山者が休憩をしている。車で来た方たちであろうか、既に山頂から下山してきた登山者もいた。

<ポイント3>

清滝小屋

平成20年より避難小屋として開放。

20名(布団20枚分ぐらいのスペース)宿泊可能。寝具なし。

テント場(10張程度)、水場、トイレあり。屋根付きの休憩場

にはベンチとテーブルも設置されている。

数分休憩した後出発。しばらく登ると、鈴ヶ坂と言う道標に出る。七沢滝コースとの合流点である。さらに急斜面を登って行くと産体(産泰)尾根に出る。ここから鎖や階段などが現れはじめる。急斜面の尾根道をジグザグに進み、横岩を通り過ぎると両神神社まではすぐである。



(↑横岩手前の梯子・両神神社 →)



(産体尾根周辺の鎖場)

12時25分 両神神社到着
食事休憩をしている登山者が結構いる。

両神神社を通り過ぎ、さらに尾根を進む。ピンクのお花のトンネルが現れる。さらに岩稜帯を超えて先に進み、最後に鎖場を登りつめると山頂へ着く。

12時50分 標高1,723m 両神山到着
山頂の剣ヶ峰からの景色は大展望である。遠くにうっすら富士山、雪をまとった八ヶ岳…。素晴らしい景色である。次々に登山者が登ってくる。山頂は広くないので、端の方で昼食を摂る。



(山頂手前の鎖場)



(両神山山頂)

<ポイント4>
両神山
周囲から抜き出た独立峰で、唯一他県と接しない純然たる埼玉県の山。里に近く峻険秀でた山容は、山岳信仰の対象にふさわしい。古来から雨乞い信仰、自然崇拜、山岳崇拜にはじまり中世の修験道近世の講中登山と、秩父地方の霊山として多くの登拝者を迎えてきた山である。
(山と溪谷社:埼玉県の山の本より抜粋)

13時25分 下山

山頂から少し下ると、ツアーの登山者が列をなして登ってくる。20人以上の団体だったように思う。

山頂にあれだけの人数が立てるのであろうか？

山頂から登山口である日向大谷口は、標高差約1,088m。何人かの登山者が膝を痛めたのか辛そうに下山している。単独の登山者の方で足を引きずりゆっくり下山しているので「よかったらストック使われますか？」と声をかけるが「大丈夫です、ゆっくり降ります。ありがとう。」とのこと。まだまだ登山口までは長い。心の中で応援！そして自分の膝も心配になる…。



16時25分 日向大谷口到着

すでに、朝バスで一緒した登山者が数人到着している。

バスの停留所には順番にザックが並び、我々も

ザックを置き、バスが来る時間まで残った行動食を

食べながらのんびり待つ。バス停から見る下山してくる登山者はやはり辛そうに降りてくる。

私も間違いなく筋肉痛になるだろうと思いながら下山者の姿を見つめる。

17時20分 バスに乗車、出発

帰りは泊りの方もいるのか、朝よりも空いている。西部秩父駅に到着したのが19時過ぎ。電車を数回乗換えて、武蔵小金井の駅に到着したのが21時過ぎとなる。

日帰り登山であったが、丸一日使ったため、二日間登ってきたかのような錯覚に陥る。

翌日だんだんと筋肉痛がひどくなり、歩く姿がおかしくなる。「腰痛めたの??」と言われる始末。

いいトレーニングになった。夫も相当ひどい筋肉痛になったようだ。…おそらく出会った登山者の方々も筋肉痛に苦しんでいるのでは??見知らぬ登山者たちではあるが同じように筋肉痛に悩まされていると思うと勝手に親近感が湧いてしまう。

バリエーションルートというべき尾根や沢が無数にあるという両神山、いつかまた違うコースで登りに行こう!!

10時00分 日向大谷登山口発

10時25分 会所着

11時00分 八海山着

11時35分 清滝小屋着

12時25分 両神神社着

12時50分 両神山山頂着

13時25分 両神山山頂発

14時35分 清滝小屋着

16時20分 日向大谷登山口着



(山頂より 遠くに南アルプス)

愛するニッポン

ベルシリーズ

- シンプルな造り、愛らしい鈴音。好みの大きさを選べる熊鈴です。
- 吊り紐のステンレスワイヤーが振り子(ハンマー)を固定します。ワイヤーの弾力で歩くごとに鈴音が大きく響きます。ワイヤーは肌にやさしいナイロンコーティング加工をしています。
- 簡単に脱着ができる消音板付き。消音板をつけると鈴音が響きません。



ビッグベル (C18)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:45 mm 直径:45 mm
重量:85g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥3,564

0°(ゼロ)ベル (C11)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:39 mm 直径:40 mm
重量:65g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥2,268

プチベル (C17)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:27 mm 直径:29 mm
重量:30g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥2,052

ミニベル (C16)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:14 mm 直径:16 mm
重量:10g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板なし
税込価格:¥1,252

<振り子の原理>

ベルはハンマーの重さと振り半径に比例して大きく響きます。



Made in Japan の現場より写真レポート Vol.2

前はワカン(スノーシューズ)のリベット用穴あけ機械をご紹介しましたが、2回目の今回はワカンに反りを付ける機械をご紹介します。

現在エキスパートオブジャパンでは M、L サイズごとにフラットタイプと反り付きタイプの2種類を販売しています。この前後の反りは、積雪のある斜面の登り降りの際、よりスムーズに足の上げ下ろしが出来るようにと工夫された物です。

右写真が実際の反り付けを行う機械です。ワカンのカーブに合わせた金型にパイプをはめ込み、上からプレスして、反りを付けます。工場内でも大型の機械で、一つ一つ手作業でプレスしていきます。

一見単純に思われる反りを付けるという作業ですが空洞のパイプを損傷せずに曲げることは熟練を要します。

ちょっとした工夫をするにも、国内自社工場で行うにはその設備があるかどうかその差が大きな違いとなります。

